

SHIRAKOBATO

しらこぼ



1994. S

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 124

日本野鳥の会埼玉県支部

ウミウとカワウの黒い関係について

海老原美夫（浦和市）

水辺に行くと、気になるやつがいる。真っ黒で大きいやつ。川にいればカワウ、海にいればウミウと、普通は安易に片づけているのだが、うっかり本気で気にしてしまうと混乱が始まる。今回はこの黒い関係にせまってみた。

■識別ポイントは

要するに、ウミウとカワウの識別ポイントはどこなのだらう。少し大きいとか小さいとかいうが、この区別では分かりにくい。成鳥の背が緑色光沢があるか、褐色が強いかな。これは大きな手がかりだが、若鳥では区別はつかない。飛んでいる時に見える翼の位置というのも、観察位置や飛行状況によってなかなか難しい。決め手にはならない。

「私にも分かる」手がかりを求めて、『フィールドガイド日本の野鳥（略称・FG）』、『日本鳥類大図鑑（通称・清棲図鑑）』、神奈川支部報『はばたき』1992年3月号に上野動物園飼育課・福田道雄氏が書いた「カワウとウミウの識別」、福田氏が日本鳥類標識協会の会合で発表した内容のレジュメ、それらを紹介解説してくれた本部政策調査部長・園部浩一郎氏の私信などを読んでみた。

■黄色い裸出部が問題だ

後頭部の丸みがどうのこうのというのも私には分かりにくいので、パス。どんどんパスしていったら、最後に残ったのが、顔の黄色い裸出部が、その後ろの白い羽毛部と、くちばし付近で接する線の形。私は個人的にそこに行き着いた。ほか分かりにくいんだもの、仕方がないではないか。私はその線にしがみつくだ。

図を見ていただこう。FGでは、①の線がカワウ、②の線がウミウの様読み取れる。はたしてそうだろうか。

上野動物園に現れたウミウの写真、山階鳥類研究所の両者の標本の写真、たくさんのカワウの写真、自分で写したカワウ（と思われ

るやつ）と、ウミウ（と思われるやつ）のドアップビデオ映像などに目を通す。

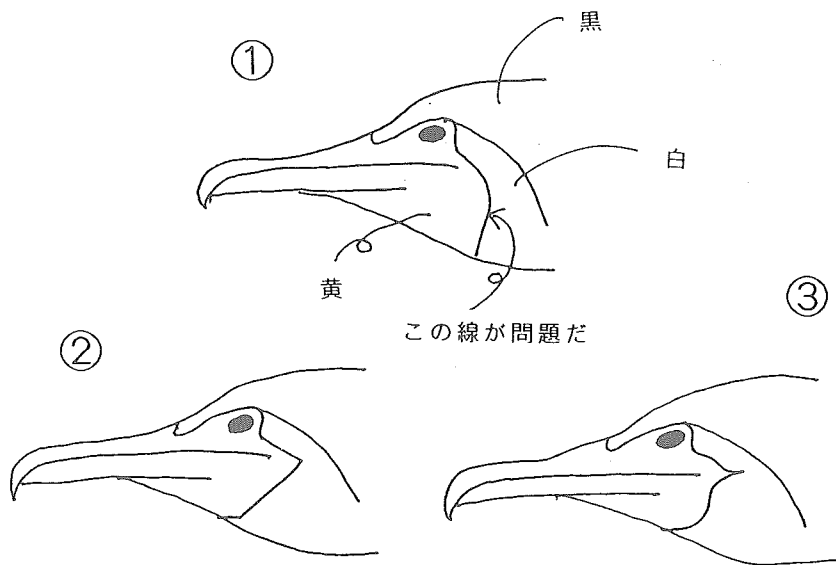
園部氏の私信では、図の①②のように直線的な線はカワウ。ウミウは③のように曲線を描き、先端が尖って食い込んでいるという。私は、また川に出かけてカワウの顔を写し、海に出かけてウミウの顔を写し、ひたすらそこだけを見つけて、ついに納得した。②の線がかなり鋭い角度を描いているカワウもいるが、ウミウのような曲線的な食い込みはない。①②がカワウ、③がウミウなのだ。

FGのイラストとはちょっと違う結論になってしまうというのも、いかにも黒いやつらのやりそうなことだ。今後新たな知見が得られるまでは、私はここに識別ポイントを置く事にするが、顔の線が見えるほど近くなかったらどうするか。ま、その時は、川にいればカワウ、海にいればウミウと言ってしまう。それでいいのだ。

■埼玉にウミウはいたか

昭和53年（1978年）3月に埼玉県教育委員会が発行した『埼玉県動物誌』によれば、「北足立郡野村字代山（現在の浦和市代山）に生息している記録がある」として、根拠文献として「黒田長礼1925/日本産ウミウについて/鳥 No.20」があげられていて、これが県内の唯一の記録なのだ。

ところが、この黒田氏の論文を読むと、ここで書いてある「ウミウ」というのは、実は「カワウ」のことらしい。「ウミウ（一名カハツ）学名 *Phalacrocorax carbo* 」と書いてあるが、旧名カハツというのはカワウのことを言い、学名も現在のカワウのことだ。15ペ



一に及ぶ論文を読み通して、その内容からも、明らかにこれはカワウについての記載である。ということは、埼玉にはウミウの記録はないことになる。

■ウミウとカワウは逆だった

昔のある一時期は、カワウの名前とウミウの名前が逆だったという、驚くべき事実を知ってしまったのは、この時のことだ。いかにもこのやつらしい黒い関係ではないか。

本来のそれぞれの学名は、

カワウ *Phalacrocorax carbo*

ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*

である。

ところが、日本鳥学会の出版した「日本鳥類目録／初版／1922」では、

Phalacrocorax carbo ……Umi-u

Phalacrocorax filamentosus ……Kawa-u

となっていて、全く逆なのだ。

後に鳥学会の初代会頭となった飯島魁が1891年にまとめた日本最初の鳥類目録「NIPPON NO TORI MOKUROKU 動物学雑誌第3巻後付」では、本来のカワウに「ウミツ、シマツ」、本来のウミウに「カワウ、カワツ」と和名が与えられている。飯島が和名を選定するにあたっては、江戸時代の養禽書を参考にした様だが、その段階で何かの誤解が生じ、それが後の目録まで引き継がれたのではないかと、

園部氏は考えている。

■埼玉にはウミウの記録はない

要するに、埼玉の唯一のウミウの記録が実はカワウのことだったとすると、埼玉にはウミウの記録がなかったことになる。

当支部の野鳥記録委員会が発表している県内野鳥リスト（探鳥会のチェックリストと同じ）は、『埼玉県動物誌』以後、1978年4月以降を対象としているので、ウミウは記録されていない。だから、あわてて書き直さなくても良い。それは良いのだが、本当に埼玉にウミウは飛来していないのだろうか。

ウミウは海岸から数10kmくらいなら内陸の水辺にも飛来し、カワウのコロニー内に混入することもあるという。とすれば、埼玉に飛来する可能性は十分すぎるほどある。

埼玉の水辺にいるんだから、カワウでしょうなんて、気楽に言えなくなってしまった。もし、顔が見える距離で遭遇したら、気をつけて見ようではないか。あなたも県内初記録の榮譽に浴するチャンスはあるのだ。

もしウミウがいたら、顔の線がはっきり分かる写真を送って欲しい。それがはっきり分からないと、野鳥記録委員会のメンバーは、また頭を抱えることになるからだ。

黒いやつらは、果たして注目を浴びるのだろうか。

総 会 報 告

6月26日(日)浦和市立コミュニティーセンターで、来賓山口智彦氏(本部企画事業部)の記念講演の後、司会福井恒人、議長菱沼一充、書記登坂久雄、議事録署名人伊藤芳晴・立岩恒久ほか多数の出席者により支部総会が開催され、変わらぬ活動を継続する事が論議されました。

5年度決算・6年度予算

[収入の部]

項 目	5年度決算	6年度予算
期首繰越金	3,447,727	4,625,442
会費収入	3,636,450	4,000,000
寄付金収入	254,181	250,000
探鳥会等参加費	222,225	250,000
雑収入	84,033	100,000
原稿料収入	385,586	0
補助金	300,000	400,000
事業部売上金額	2,042,544	2,000,000
合 計	10,372,746	11,625,442

[支出の部]

項 目	5年度決算	6年度予算
什器備品費	18,055	500,000
消耗品費	41,476	100,000
支部報印刷費	923,614	1,500,000
支部報送料	890,861	1,440,000
印刷コピー代	319,134	400,000
通信費	161,017	200,000
雑費	204,149	200,000
支払い原稿料	215,586	0
家賃	900,000	1,500,000
水道光熱費	54,799	60,000
総務部費用	112,200	130,000
普及部費用	140,000	150,000
編集部費用	40,000	40,000

研究部費用	0	30,000
事業部費用	5,379	20,000
事業部仕入額	1,721,034	1,600,000
予備費	0	800,000
期末繰越金	4,625,442	2,955,442
合 計	10,372,746	11,625,442

6年度役員

[支部長] 松井昭吾 [副支部長] 海老原美夫
 [幹事] 石井幸男 伊藤芳晴 榎本秀和 岡安征也 北川慎一(再) 草間和子 工藤洋三(新) 小池一男(新) 小荷田行男 小林みどり 佐久間博文 桜庭勇(新) 杉本秀樹 高草木泰行(新) 田口浩司 立岩恒久 手塚正義 登坂久雄 内藤義雄 中島康夫 長谷部謙二 林慎一 菱沼一充 福井恒人 町田好一郎 三田長久 森本國夫 山部直喜 吉原俊雄
 [監事] 石川敏男 楠見邦博

新たに4人の新人が幹事に就任し、しばらく休んでいた北川幹事が復帰しました。

従来幹事として活躍してきた笠原伸子・黒田佳子・藤原寛治・柳原正昭・渡辺周司の5名は退任しますが、引き続きリーダーとしての活動は続けます。これからもよろしくお願ひします。

1994年モニタリング調査結果

— 武蔵丘陵森林公園 —

1994年から日本野鳥の会では、本部研究センターが中心になって「鳥の生息環境モニタリング調査」を開始しました。この調査の目的は、1)鳥の生息状況と生活環境の変化、2)環境変化が鳥に及ぼす影響、3)開発規制指針の作成、の諸点を明らかにする事です。5年間1周期として、1年目は森林と草原、2年目は干潟、3年目は湖沼、4年目と5年目

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

は解析と見直しに当てるプランです。

当支部では、この調査を研究部が分担する事になり、調査地の選定に入りました。調査地の条件として、研究センターでは、1km以上同一植生が続く森林を指定しています。調査方法から、5年後にも森林として存在し続けている所である必要があり、年に何回も調査を行うため調査担当者が行きやすいなどの

条件を考慮して、国営武蔵丘陵森林公園と定め、1993年7月、同公園を詳しく調査し、北口から約1kmのセンサス・ルートを定めました。

センサス・ルートの森林は、1993年7月の植生調査によれば、クヌギ・コナラ・アカマツの高木を主とし、アオハダ・ミズキ・ヤマザクラなどが散在し、アズマネザサを主とする林床植生がある、武蔵野の典型的な雑木林です。所々には、公園になる前に植えられたスギなどもあります。

越冬期のセンサス調査は1994年1月30日に行われ、17種の鳥が出現しました(表1)。繁殖期のセンサス調査は1994年5月29日に行われ、12種が出現しました(表2)。

次年度は干潟のため新たな調査地を設定し調査して行く予定です。

表1 越冬期のセンサス調査

ツグミ	2	カワラヒワ	2	メジロ	4	コゲラ	
5	ヤマガラ	2	ツミ	1	アオジ	7	エナガ
1	ノスリ	1	シロハラ	5	シジュウカラ	3	
	ホオジロ	1	ヒヨドリ	5	ウグイス	2	ドバト
1	カケス	9	ハシブトガラス	3			

表2 繁殖期のセンサス調査

コジュケイ	2	キジバト	1	ホトトギス	1		
シジュウカラ	4	ヒヨドリ	6	ウグイス	1		
カワラヒワ	3	メジロ	4	ホオジロ	6	コゲラ	成鳥
3	スズメ	3	ハシブトガラス	3			3

(執筆 小荷田行男)

白頭鷲の英名講座 第8回

ハクトウワシ

英名はBald Eagle (ボールド・イーグル)。毛のない、はげた、頭に白いまだらのあるワシという意味になります。ところがハクトウワシは、まさにその名の通り、真っ白な頭と尾をしていて、立派な白髪がふさふさしています。

初代大統領ジョージ・ワシントンが、ナショナル・エンブレム(国家の紋章)として、その風格、気品からハクトウワシを選んだ時、ベンジャミン・フランクリンは、「ハクトウワシは臆病でなまけ者で、自分では獲物を追わず、自分より弱いタカから餌を盗む鳥である。むしろワイルド・ターキー(七面鳥)のほうがふさわしい」と批判しました。さすがフランクリンらしい科学的な観察です。しかし、1782年に、ハクトウワシが正式に合衆国の紋章として制定されたことは、ご存じの通りです。

学名は *Haliaeetus leucocephalus*。

Haliaeetus はオジロワシ属の属名で、世界で8種、日本にはオジロワシとオオワシの2種がいます。*leucocephalus* は種名で、頭の白い、しろがしらの意味であり、属名と種名

の組み合わせで、「頭の白いオジロワシ属の一種」ということになります。

分布はアラスカ、カナダ、アメリカ西海岸及びフロリダであり、日本では見られません。海岸線や湖水のほとりにすみ、確かに弱った魚や釣り人の捨てた魚を主食にしているようです。

アメリカではとてもポピュラーなワシで、イーグルといえば、一般的には、このハクトウワシを指しています。そのせいか他にもいろいろな呼び名がついています。列举して見ますと、

- American Eagle
- Black Eagle
- Fishing Eagle
- Gray Eagle
- Washington Eagle
- White-headed Eagle
- White-headed Sea Eagle

これらは易しいので、和訳の必要もないと思いますが、それぞれその特徴をよくとらえています。ただ、Black Eagle は、幼鳥が全体に黒っぽいからでしょう。

サギ (コロニー) ◇4月21日、戸田市道満
 荒川第一調節池に成育するカワヤナギ林で
 ダイサギ5営巣。コサギ22営巣。ゴイサギ
 107営巣 (有山智樹)。
 ミゾゴイ ◇4月20日、浦和市秋ヶ瀬のピク
 ニックの森で1羽 (福井亘)。
 トモエガモ ◇5月1日、浦和市の白幡沼で
 アヒルの♂と交尾する (有山智樹)。
 ヨシガモ ◇4月16日、戸田市道満荒川第一
 調節池で♂1羽 (有山智樹)。
 オオタカ ◇4月20日、浦和市秋ヶ瀬のピク
 ニックの森で成鳥♂1羽 (福井亘)。
 ツミ ◇4月26日、27日大宮市日進1丁目
 林の中から鳴き声が聞こえた (森本國夫)。
 ◇4月25日、桶川駅西口公園上空で1羽
 (立岩恒久)。
 サシバ ◇4月24日、荒川村浦山川で1羽。
 川原でカエルを捕食する (田口浩司)。
 ◇4月24日、杉戸町遠野で1羽 (秋間利夫)。
 コチョウゲンボウ ◇4月23日、深谷市の利
 根川上武大橋下流で♂1羽 (井上幹男)。
 クイナ ◇4月21日、戸田市道満の釣り堀で
 夏羽1羽 (有山智樹)。◇4月29日、狭山
 市の入間川豊水橋下流で1羽。約5分間姿
 を確認 (石井幸男)。
 メダイチドリ ◇4月16日、和光市下新倉の
 荒川貯水池で1羽 (駒崎政雄、有山智樹)。
 ムナグロ ◇4月24日、深谷市の利根川上武
 大橋下流で5羽 (井上幹男)。
 キョウジョシギ ◇4月23日、浦和市秋ヶ瀬
 のA区で3羽 (鈴木博志)。
 トウネン ◇4月30日、大宮市昭和の大久保
 農耕地で夏羽1羽 (有山智樹)。
 オジロトウネン ◇4月17日、幸手市木立の
 中川で5羽 (秋間利夫)。
 ハマシギ ◇4月23日、志木市の柳瀬川、高
 橋～栄橋間で夏羽31羽。中州の一ヶ所にぎ
 っしりと押し合うように集まり、しきりに
 ピリピリと鳴く (中司隆由)。
 ツルシギ ◇4月16日、和光市下新倉の荒川
 貯水池で夏羽換羽中の個体1羽 (有山智樹)。

◇4月23日、浦和市秋ヶ瀬のA区で1羽
 (鈴木博志)。
 アオアシシギ ◇4月24日、深谷市の利根川
 上武大橋下流で2羽 (井上幹男)。
 キアシシギ ◇4月24日、深谷市の利根川上
 武大橋下流で1羽 (井上幹男)。
 チュウシャクシギ ◇4月30日、大宮市昭和
 の大久保農耕地で10羽 (有山智樹)。
 チュウジシギ ◇4月18日、川口市行衛の見
 沼田圃で1羽。広いヨシ原の上を飛ぶのを
 観察 (有山智樹)。
 オオジシギ ◇4月18日、川口市行衛の見沼
 田圃で5羽。広いヨシ原の上を時折、飛ん
 でいるのが見られる (有山智樹)。
 ツバメチドリ ◇4月30日、深谷市の利根
 川上武大橋下流で1羽 (井上幹男)。
 アジサシ ◇4月30日、大宮市昭和の大久保
 農耕地で夏羽1羽 (有山智樹)。
 コアジサシ ◇4月17日、幸手市木立の中川
 で1羽 (秋間利夫)。◇4月22日、川越市
 の伊佐沼で2羽 (中司隆由)。
 ジュウイチ ◇4月29日、大滝村の大血川東
 大演習林で1羽 (田口浩司)。
 ツツドリ ◇4月24日、横瀬町の生川上流で
 1羽 (田口浩司)。◇4月30日、大滝村の
 大血川東大演習林で1羽 (田口浩司)。
 アマツバメ ◇4月23日、本庄市の利根川阪
 東大橋下流で大群 (井上幹男)。
 カワセミ ◇4月23日午前10時40分、浦和市
 の白幡沼の斜面林で造巢中のペアをツミの
 ♀が襲撃。♂♀別々の方向に逃げて行った。
 かなり鋭い警戒音を発する (有山智樹)。
 ショウドウツバメ ◇深谷市の利根川上武大
 橋下流で1羽 (井上幹男)。
 サンショウクイ ◇4月29日、浦和市秋ヶ瀬
 のピクニックの森で♂1羽。よく鳴いてい
 た (鈴木啓紀)。
 ミソサザイ ◇4月10日、名栗村棒ノ嶺の白
 谷沢で2羽 (有山智樹)。
 コマドリ ◇4月24日、横瀬町関ノ沢上流で
 1羽 (田口浩司)。
 ノビタキ ◇4月23日、本庄市の利根川阪東
 大橋下流で夏羽の♂1羽 (井上幹男)。
 アカハラ ◇4月23日、浦和市白幡2丁目

♂1羽(有山智樹)。◇4月27日、大宮市日進1丁目で1羽(森本國夫)。
 クロツグミ ◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♀1羽(鈴木啓紀)。◇4月28日、大滝村の大血川東大演習林で1羽(田口浩司)。
 ヤブサメ ◇4月23日、両神村の小森川流域で1羽。ガガンボを捕食する(田口浩司)。◇4月29日、大滝村の大血川東大演習林で多数の声を聞く(田口浩司)。◇5月2日、加治丘陵の桜山展望台付近の雑木林でたくさんの声を聞く(山本真貴子)。
 コヨシキリ ◇4月17日、狭山市の入間川豊水橋下流で1羽(石井幸男)。
 オオヨシキリ ◇4月23日、本庄市の利根川阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。◇4月24日、吉見町の吉見運動公園で合唱を聞く(長島岩雄)。◇4月24日、戸田市道満荒川第一調節池で2羽(高橋達也)。◇4月25日、吹上町大芦で1羽(栗原省二)。◇4月25日、幸手市木立の中川で1羽(田畑孝)。◇4月25日、桶川市川田谷で1羽(立岩恒久)。◇4月29日、狭山市の入間川豊水橋下流で1羽(石井幸男)。
 メボソムシクイ ◇4月25日、吹上町大芦砂原の荒川堤の桜の木の葉陰で動く姿と鳴き声を聞く(栗原省二)。
 エゾムシクイ ◇4月25日、上尾市の丸山公園で2羽。さえぎりを聞く(立岩恒久)。◇4月29日、大滝村の大血川東大演習林でさえぎりを聞く(田口浩司)。
 センダイムシクイ ◇4月22日、浦和市の白幡沼で1羽(有山智樹)。◇4月28日、大滝村の大血川東大演習林で1羽(田口浩司)。◇4月29日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(福井亘)。◇4月下旬、浦和市

辻の自宅ベランダから5m程のムクの木で1羽(倉林宗太郎)。◇5月1日、加治丘陵の桜山展望台付近3羽(山本真貴子)。
 キビタキ ◇4月23日、両神村の小森川流域で多数(田口浩司)。◇4月28日、大滝村の大血川東大演習林で多数(田口浩司)。◇4月29日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で♂1羽♀2羽(鈴木啓紀)。◇5月1日、加治丘陵の旧サイクリングコース、武蔵野音大付近で♂1羽(山本真貴子)。
 オオルリ ◇4月23日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♂1羽。10m程先の3m位の高さの枝にとまり盛んにさえぎり、一瞬草地に降りた。緑と青のコントラストが鮮やかだった(鈴木博志)。◇4月23日、両神村の小森川流域で多数(田口浩司)。◇4月28日、大滝村の大血川東大演習林で多数(田口浩司)。◇5月1日、加治丘陵の桜山展望台付近の雑木林で♂1羽(山本真貴子)。
 エナガ ◇4月13日、飯能市下畑、成木川付近の雑木林で10~15羽。カラ類と混群(古沢紀)。
 コガラ ◇4月10日、名栗村棒ノ嶺の白谷沢で2羽。水浴びしていた(有山智樹)。
 ヤマガラ ◇4月20日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(福井亘)。
 アオジ ◇4月13日、入間市入間川豊水橋上流、笹井堰でさえぎる(古沢紀)。
 クロジ ◇4月29日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で♂1羽(鈴木啓紀)。
 マヒワ ◇4月10日、名栗村棒ノ嶺の白谷沢下山口付近で♀1羽(有山智樹)。
 コムクドリ ◇4月15日、浦和市辻4丁目の笹目川で♂1羽。ツグミ8羽の群れに混じていた(有山智樹)。◇4月18日、川口市行衛の見沼田圃で♀1羽(有山智樹)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト 1993 入選作

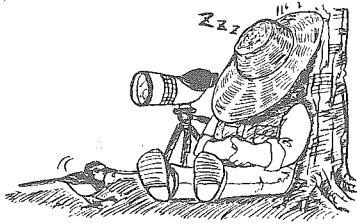
アカエリヒレアシシギ (ヒレアシシギ科)

旅鳥として主に海洋上に飛来するヒレアシシギは、まれに内陸にも飛来する。水面を泳ぎながらチョコチョコせわしく餌をついばんでいる。この時はもう餌の事しか頭にないらしく、人が近づいてもおこまいなし。すぐ

近くまで寄ってくれるものの、いつも動き回っているの、ぶれた写真ばかり。食事を一休みして羽づくろいを始めたところだけが、ようやくぶれずに写せた。

登坂久雄 (八王子市)

行事あんない



(渡辺 敦)

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月7日(日)

汗をかいての緑陰は最高です。詳しくは7月号8頁をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：8月14日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車。

担当：菱沼(一)、森本、小池、関口、菱沼(洋)、齊藤、根岸、中島(章)、和田、石井(博)

見どころ：立秋を過ぎてもまだまだ暑い毎日。わき上がる入道雲、ぎらつく太陽。しかし、シギたちの秋の渡りはもう始まっています。野鳥の森ではヤブミョウガが白い花をひっそり咲かせます。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：8月21日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、笠原、伊藤、岡部、嶋田、倉林

見どころ：暑い暑いと言っているうちに、芝川のアシの葉末に何が！ 干潟の上に何が！ 暑さの夏は充電の時と勉強しているのですが、三室で夏鳥にお

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

別れしよう。ひょっとしたら、初秋の香りがしていたり！

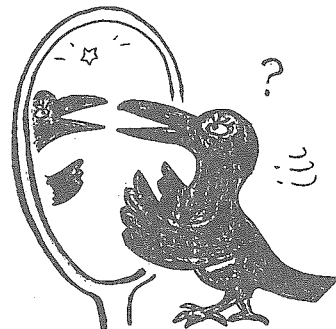
ワイワイガヤガヤVTRを楽しむ会

とき：8月21日(日)午後2時～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

担当：伊藤芳晴、菱沼一充

案内：8月のこの暑い時期に恒例となってしまうVTRを楽しむ会も今年で3回目。年々レベルが向上してもうプロはだし？の作品がドドーンと公開されるのではないかと楽しみにしています。是非あなたの秘蔵の作品を公開して下さい。またこの際ビデオ撮りを始めようとしている方、のぞきに来てくれる方、大歓迎です。それにアフターは暑気払いにそのままなだれ込もうナーンて思っているのですが。



必死でトラックのバックミラーに守った
自分をコスキ廻すカラ入居

(陶山 和良)

『しらこぼと』袋づめの会

とき：8月27日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：探鳥会は鳥をみて、人との交流もできて楽しい。袋づめは何が楽しいかというのと、奉仕することそのものとかいえませんが、非公式にはいろいろありますようで。一度も出たことがないなんていわずに、お気軽にどうぞ。

野鳥写真クラブ定例会

とき：8月27日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：ワイガヤVTRの当日来られなかった方、当日の熱気とアフターを再現しますので是非どうぞ。

リーダー研修会

とき：8月28日（日）午前9時～午後4時

会場：北本市文化センター（中央公民館）

JR高崎線北本駅西口下車徒歩約10分、大通りを真直ぐ進み、二つ目の信号左折約100m。会場☎0485-91-7321

申し込み：支部事務局または中島普及部長
まで

案内：野鳥の会なんて、どこかの誰かが何とかやっているんじゃない？ そうです。どこかの誰かががんばっているのです。人任せではなく、何とかする側になってみませんか。

あの程度なら、自分でも探鳥会のリーダーができそう。いや、自分だったらああやりたいし、こうやりたい。そうです。あなたの力を貸してください。新しい何かが始まります。

参加資格：支部会員ならどなたでも。

千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：9月3日（土）

集合：午前9時30分 JR京葉線南船橋駅前

交通：JR武蔵野線南浦和8:31→南船橋9:24

担当：杉本、佐久間、篠原（東）

見どころ：シギやチドリは秋の渡りの最盛期。春の時季よりも種類は多く、珍し

い鳥も期待できます。7月1日にオープンした自然観察センタ（大人200円）の見学もどうぞ。

注意：暑さが話題にのぼる探鳥会です。防暑対策もお忘れなく。

千葉県船橋海浜公園探鳥会

期日：9月4日（日）

集合：午前9時40分 JR京葉線二俣新町駅前
集合後京成バス9:53にて現地へ

交通：JR武蔵野線南浦和駅8:37→南船橋乗換
京葉線東京行き9:37→二俣新町下車

担当：佐久間、杉本、篠原（東）、新堂

見どころ：真近に見られるシギやチドリ、8月から9月は種類の多い時季です。アジサシ類、ミヤコドリにも期待がかかります。鳥達の重要な休憩地、三番瀬も見ましよう。

注意：まだまだ日差しは強く、海辺は暑い！
帽子や飲物をお忘れなく。

本庄市 阪東大橋探鳥会

期日：9月4日（日）

集合：午前9時 JR高崎線本庄駅北口（集合後バスで現地へ。十王バスで「阪東大橋南詰」下車。東武バスは廃止）

担当：町田、菱沼（一）、小池、林（滋）、小淵、小野沢、和田、中島（章）、石井（博）

見どころ：残暑きびしい阪東大橋。アオアシシギの哀愁をおびた鳴声を聴きにでかけませんか？ ブルースカイ、アマツバメそしてノビタキに会えばラッキー。帽子と冷たい飲物、お忘れなく。

今月号のカット

名古屋市 渡辺 敦

丁度暑い盛りで鳥たちも「おかくれ」になる頃、つつい大木の下で居眠り。すると元気なセキレイ君がクツヒモを引っ張って、まるで「私を見てよ!!」とさいそくしているみたい。

9月10日（土）坂戸市・川角探鳥会

行事報告

2月20日(日) 清川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 59人 天気: 快晴

カイツブリ オシドリ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ホシハジロ ワシタカsp チョウゲンボウ コジュケイ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 従来のコースと大幅に変更し、南口近くの展望レストラン前を解散地点に設定(コース: 南口広場→西田沼→サイクリングセンター→展望広場→長沼→林間広場→展望レストラン)。サイクリングセンターから展望広場への林間の小径では、多数の小鳥を楽しめた。長沼では、オシドリとトモエガモ。展望レストラン前で解散後に昼食。その後、リーダーたちは梅林に寄ったが、梅の花も満開で、昼食はこちらにすべきであったと反省。(吉原俊雄)

4月3日(日) 北本市 石戸宿

参加: 76人 天気: 晴

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ トビ タカsp チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン キジバト コゲラ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 砂塵のまきあがる空を、強風に流されて横に飛ぶ?トビの珍しい姿を観察。エドヒガンザクラに群れるメジロ。ポーズをとったウグイス。チョウゲンボウを近くで見られた人。それぞれに楽しんだお花見探鳥会。解散後は、花より団子。

(岡安征也)

5月4日(水、休) 川越市 西川越

参加: 16人 天気: 曇

カワウ コサギ カルガモ トビ コジュケイ

キジ コチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ コルリ ツグミ ウグイス オオヨシキリ センダイムシクイ セッカ コサメビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 今にも泣きだしそうな空の元、探鳥会を開始。歩き始めた直後、コルリのさえずり。参加者全員、全身を耳にして2回目のさえずりを待つ。100mも歩かない間に、センダイムシクイ、コサメビタキの出現。渡りの途中とはいえ、入間川にまたまた珍しい小鳥たちが来てくれた。常連のカワセミ君も出てくれたし、全員満足して探鳥会を終了した。(石井幸男)

5月5日(木、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 49人 天気: 曇

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ スズガモ シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ ミユビシギ キアシシギ オオソリハシシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ ユリカモメ セグロカモメ カモメ ウミネコ アジサシ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 鳥が見やすい潮のはずだったが、強い南風で吹き寄せられた水が一杯の谷津干潟。一筋縄ではいかない自然の中、アジサシ、カモメなど普段は少ない鳥が出てくれた。

(杉本秀樹)

5月7日(土)~15日(日)

大麻生定例探鳥会100回記念

バードウォッチングフェスティバル

ボランティア: 23人

海老原教子、海老原美夫、岡安征也、草間和子、

楠見邦博、小出 博、佐久間博文、桜庭 勇、関口善孝、田口浩司、立岩恒久、内藤義雄、中島康夫、永野京子、永野安彦、林 慎一、菱沼一充、菱沼洋子、福井恒人、逸見 嶮、町田好一郎、森本國夫、和田康男

5月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 110人 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(26種) 100回記念探鳥会ということで、110名もの人が参加してくれた。五月晴れの好天に恵まれた当日、松井支部長の挨拶で始まった探鳥会では、キジの夫婦、シジュウカラやコゲラの子育てが見られた。河原の草地ではセッカやヒバリが高らかにさえずり、100回目の探鳥会を祝ってくれた。鳥合わせ終了後、お待ちかねの野外パーティ。この日のために作った大麻生ビール(ノンアルコール)で乾杯! 歩いた後の1杯はおいしいと大好評だった。全員参加の抽選会では、フィールドガイドや大麻生ワッペンが当たり、大いに盛り上がった。(菱沼一充)

編集子: 大麻生ビールは、ラベルもお手製の凝ったものでした。

5月13~15日(金~日) 東京都 三宅島

参加: 24人 天気: 晴~雨

クロアシアホウドリ オオミズナギドリ オーストンウミツバメ カツオドリ ウミウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ ミサゴ トビ タカsp コジュケイ キジ バン キアシシギ トウゾクカモメ ウミネコ ウミスズメsp カラスバト キジバト アオバズク アマツバメ コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コマドリ イソヒヨドリ アカコッコ ツグミ ウグイス ウチヤマ(シマ) センニュウ イイジマムシクイ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ シメスズメ ハシブトガラス(45種) 島はまさに繁殖期。さえずり、餌運びと、鳥たちはみんな忙しそう。観察した種類は例年に比べて少なかったが、ひとつひとつをじっくり見ることができた。巢立

ったばかりのミソサザイの兄弟などはなかなか見られるものではないだろう。野鳥のほかにも、満天の星、真の闇の中でほのかに発光するキノコ、海面を飛ぶトビウオの姿などが心に残る。

(榎本秀和)

5月15日(日) 本庄市 阪東大橋

参加: 14人 天気: 雨時々曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ カワアイサ トビ キジ バン コチドリ ハマシギ クサシギ キアシシギ イソシギ ツバメチドリ シロハラトウゾクカモメ カモメsp コアジサシ キジバト ガッコウ アマツバメ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(38種) 本庄駅でも利根川の集合地でも、「あいにくです。本日は雨のため中止します。」とメインリーダー。「仕方ないですね。」と参加した方々。共に淋しそう。折角だから「ツバメチドリ」を皆で見に行きましょう。(一同ニコッ!!) ついでに「繁殖予定地」まで行きましょう。(一同ニコッ、ニコッ!!) ナ、ナ、ナント。ここでシロハラトウゾクカモメが出現したのだ!! 即、探鳥会に切替え。(現金なもの。) スミマセン、参加費下さい!! 名簿書いて下さい!! 遅ればせながらリーダー諸氏。お疲れさま!! (町田好一郎)

5月15日(日) 上尾市 丸山公園

参加: 13人 天気: 小雨

カイツブリ カワウ カルガモ コジュケイ キジ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(25種) 今にも泣き出しそうな空を気にしながらのスタート。早朝の静けさを破る甲高い声は、チョットコイのコジュケイ。あっちからもこっちからも聞こえてくる。野鳥の森で先週さえずっていた2羽のエゾムシクイも北海道へ渡った頃だろうか。代りに今年初認のカッコウが2羽。他に、オオヨシキリがアシ原で大はしゃぎ。カワウは池の杭の上にすわって、小魚を欲しそうにしていた。やはり早朝探鳥会は“三文の得”だ。(立岩恒久)

連絡帳

●傷病野生鳥獣保護診療機関などの変更 一
前月号本欄でご紹介した保護診療機関のうち、浦和市のバードクリニックが制度から脱退しました。
また、県庁野生生物係の内線番号が次の通りに変わりました。
048-824-2111内線3154, 3155

●バードソン1994に出場希望者現る！ ——
昨年に引き続き、埼玉県支部からバードソンの公式チームを出そうとの声に応じて、颯爽と立候補したのは、前回サポーターをつとめた伊藤芳晴幹事。というカッコいいけれども、実は前回打ち上げ会の席での事。酔った勢いで登坂リーダーから見えない引き継ぎ証書を受け取った格好をしたのを、ビデオにしっかり記録された。それを総会の席で公表されてしまったので、やむを得ずというのが真相とか。
早速メンバー集めに奔走開始。その場にいた杉本幹事をまず拌み倒し、続いて、頼めばいやとは言わない長谷部幹事と、いやとは言わせない田口幹事を電話で説得。なぜか全員なんとかのチームが、一夜で誕生。
まだ冬羽（非繁殖羽）の4人がどんな活躍をするかしないか。応援をお願いします。
（この項、杉本広報担当の原稿に加筆）

●鳥写四人展 ——
支部幹事の登坂久雄が、私市一康・清田潔・吉田博、3人の鳥友たちと共に今年も開催。鳥だけではなく、自然や哺乳類の写真も含め、合わせて80点余りを展示します。
期間 8月12日（金）～14日（日）
時間 午前10時～午後5時
場所 台東区立浅草公会堂展示ホール（台東区浅草1-38-6 TEL 03-3844-7491）
問い合わせ先 ↓

●コニカ・パッケージエイドにご協力を ——
コニカフィルムの上ぶたを、店先に置かれ

たチャリティー箱に入れるか、鶴居・伊藤サンクチュアリに送ると、1枚につき20円がコニカから同サンクチュアリに寄付され、タンチョウの保護に役立てられます。
送り先 085-12北海道阿寒郡鶴居村中雪裡南 鶴居・伊藤サンクチュアリ「パッケージエイド係」
問い合わせ先 TEL 03-3406-7094本部普及部 担当：川村、日高

●8月の土曜日当番（2時～6時） ——
6日 中島康夫 楠見邦博（普及部会議）
13日 山部直喜 海老原美夫（編集会議）
20日 小池一男 金井祐二（校正の日）
27日 袋づめの会（1時から）

●会員数は ——
7月1日現在 2,448人です。

活動報告

6月4日 普及部会議。
6月11日 浦和市立郷土博物館主催の親子探鳥会指導（楠見邦博ほか）。
6月11日 7月号編集作業。
6月18日 7月号校正作業（海老原美夫、工藤洋三、桜庭勇、内藤義雄）。
6月18日 役員会議（司会・笠原伸子、7～10月の行事予定・総会準備・その他）。
6月26日 役員会議（総会の会場で、司会・海老原美夫、新執行部の選出・その他）。

編集後記

この春、一部マスコミが「今年も冷夏だ」と騒いでいたけど、私はそれを「フン」とバカにして眺めていた。今年は絶対に冷夏にはならないという確信の根拠は、近所で見かけるツバメが昨年よりずっと多かったし、夜ごとのカエルのコーラスもケタ違いだったから。自然界の身近な友人たちの情報ははるかに正確だった。それにしても暑すぎる……ワンピース姿で編集会議に現れたら、どうしたの？と言われてしまった。（小林みどり）

『しらこぼと』1994年8月号（第124号） 定価 100円（会員の購読料は会費に含まれます）
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
印刷 関東図書株式会社 （本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）

再生紙使用